

薩摩川内市長 森 卓 朗 殿

薩摩川内市の市政に関する提言書

薩摩川内市女性50人委員会

平成20年9月

目 次

1	薩摩川内市女性50人委員会提言を行うにあたって 薩摩川内市女性50人委員会会長 橋口 秀子	1
2	提 言	
(1)	生活環境分科会	2
(2)	保健福祉分科会	5
(3)	産業経済分科会	7
(4)	教育文化分科会	10
(5)	共通事項	13
3	提言作成経過	14
4	薩摩川内市女性50人委員会名簿	16

薩摩川内市女性50人委員会提言を行うにあたって

平成19年4月第2期の女性50人委員会を設立していただきましてから早いもので、もう提言をまとめる時期になりました。

この間、当初の頃は各分科会で、政策の学習から始め、市の政策への議論を深めてまいりました。今年4月には市長の市政に関する御講話をいただく機会を得ました。これは、「薩摩川内市」が見えた貴重な講話でした。薩摩川内市民として、安心して暮らせるまちづくりを考える機会でもありました。

さて、50人委員会はここに提言書を提出させていただくこととなりましたが、この50人委員会の存在は、政策決定の場にまだまだ女性の参画が少ない今だからこそ、意義のあるものだと思います。

4つに分かれた各分科会で、それぞれのテーマに沿って政策を掘り下げ、「提言」という形に整えていくことは、大部分の委員が新しい経験でした。

市民のひとりとして、足元を、まち全体を見つめてみる・・・それを声にし、話し合いを重ねる中で形となっていく。各分科会の議論は回を重ねるごとに真剣味を増しました。

50人委員会の残すものとして、「提言」とは別に、今後、生活者としての視野を広く深く持ち、まちづくりへの関心を高かめたこともひとつの成果だったと思います。

提言につきましては、具体的な研究・施策が足りていない部分もあるかと思いますが、分科会ごとに検討した結果を取りまとめて、女性50人委員会の提言として提出させていただきます。

提言につきましては、実現に向け善処していただき、市民にとってより安心な暮らしやすいまちづくりがなされますようお願いしております。

平成20年9月

薩摩川内市女性50人委員会
会 長 橋 口 秀 子

薩摩川内市女性 50 人委員会 生活環境分科会

テーマ：「市民が安心・安全で快適に暮らせるまちづくり」

生活環境分科会では、テーマを「市民が安心・安全で快適に暮らせるまちづくり」に決めて、身近で自分たちの手の届くところから、問題を見つけ出し、検討をすることにしました。

まず、前期の提言内容事項を確認することからはじめました。前期の成果を踏まえて、新しく提言の項目を 5 つにまとめてみました。

1．環境対策の充実

- ・原子力は一番心配なイメージを受けましたので、施設見学をし、自分達目で安心・安全を確認することにしました。

確認する中で、自衛消防の設置・地震対策など、私たちが疑問に思っていた問題を企業側より説明していただきました。自衛消防隊の新設と訓練等の新聞報道は更に安心の材料になりました。

2．ゴミ処理の充実と資源の活用

- ・前期の提言と同様、今回の提言でも取り上げました。特に今回は洞爺湖サミットで環境問題 C O₂ 削減が重要課題であり、私たちにできることから、次の 2 つを選び

- ・リユースの活用

3 R のうち R E U S E (再使用)・R E D U C E (排出規制)・R E C Y C L E (再生利用)

- ・マイバッグの浸透

を提言することにしました。

3．下水道・生活排水処理対策の推進

- ・旧川内市は下水道工事が進んでおり、問題提起しませんでした。甕島では下水道はないものの浄化槽での処理が充実していました。しかし、甕島の水不足は、気にかかりました。

- ・管理型最終処分場施設問題は今、地元の説明の段階であり、現時点で私たちが問題にすることは控えたいと考えました。

4．蘭牟田池の環境保全

- ・電源地域振興指導事業の 1 つ、マーケティング支援プログラムの「観光現地指導会」(蘭牟田池を語ろう会)に聴講生として参加し、ラムサール条約の指定を受けた蘭牟田池周辺には、ベッコウトンボ・生態系アクアタイム館の展示・観光猪鹿鳥の料理(昔ながらの網を使つての鴨猟)・周辺の山登り・民話等を生かす方策等が沢山あることから提言をすることにしました。

５．緑の基本計画の検討を行い，まだまだメインロードや住宅地に花や緑が少ないことがわかりましたので，提言することにしました。

以上の構想で下記の通り，提言いたします。

< 提言 >

河川・海岸の清掃の支援

- １ ボランティアで海岸や川内川流域の岸辺を清掃したゴミの回収と定期的に業者やNPO法人に清掃を委託する。

ゴミ処理の充実と資源の活用

- １ リユース制度の創設

ア 生活用品の再使用をいっそう図るために家具や台所等の不要品の中で資源活用できるものを１カ所（例：リサイクルセンターの１部でも可）に集めて市民の中から希望者に再利用してもらうよう働きかける。（例：子供机 タンス）

- ２ マイバッグ利用の促進

ア 買う側・売る側双方の意識を高め，参加する市民の自覚を促したい。商店とタイアップして利用者に還元する制度（ポイント制度等）を取り入る。

イ マイバッグ利用の促進の啓発ポスターを作って，掲示する。

アイドリング規制制度の制定

- １ 市営バス・公用車をはじめとするアイドリングの規制，市営バスアイドリングストップの実施をする。

太陽光発電システムの導入拡大

- １ クリーンエネルギーの一つ，太陽光発電導入件数の増加を図るために市で普及促進のための独自助成を行う。

蘭牟田池の環境保全

- １ 全国トンボサミット

ア ラムサール条約内容や価値の大きさを住民へ周知し，Ｈ２３年「全国トンボサミット」開催地誘致に尽力し，行政も協力及び援助をする。

- ２ アクアイム館の整備，生態系アクアイム展示内容，運営の充実

ア 観光と環境の拠点になるような展示内容にする。

イ 外国からも来場者がみえるので3カ国語位の案内板を作成する。

ウ アクアタイムの案内人に学芸員の勤務（週2日程度）をお願いする。

3 登山・散策コースの整備

ア 山に登ったりするとき，山の魅力をもっとうたった標識・案内板を設置する。

イ その際，外国人の参加も想定した案内板の設置をする。

4 清掃と渇水期対策

ア 池周辺の清掃への参加と渇水期の対策をする。

「グリーン作戦」の日の制定

- 1 「クリーン作戦」にあやかって，第3日曜日（家庭の日とあわせて）を「グリーン作戦」の日とし，全市一斉に，緑を守り，緑を育てる日に制定する。併せて，近所の環境美化にも取り組む。

街に緑を増やそう

- 1 広い歩道・公園には台風に強い木を植え，新設団地・道路にも市木（クロガネモチ）を中心に植える。

薩摩川内市女性50人委員会 保健福祉分科会

テーマ：「健やかで笑顔輝くまちづくり」

～子育て，少子・高齢化，障害者へのあたたかいまなざしを育んでいくための提言～

保健福祉分科会では，提言を行うにあたって平成19年度版の“薩摩川内市地域福祉計画の基本理念”を参考にしながら限られた時間の中でそれぞれの委員が真剣に女性の観点から見直すべき課題をいろいろ討議してまいりました。

その中には，福祉アドバイザーの問題や福祉サービスの地域格差の問題等提言にまでこぎつけられなかったものもありましたが，今回は甑島研修という大きな機会も作っていただき薩摩川内市民がひとつになったような気がして感謝しております。

このような貴重な研修の経験も生かされた提言が1日も早く実現できますよう私達も一市民としてできることは協力していきますのでどうぞ宜しくお願いします。

< 提言 >

高齢者福祉について

1 高齢者おでかけ支援事業について

ア 助成券の利用を現行の運賃・入浴料に限定せず，柔軟な運用を考えるべきである。

イ 同事業の広報を促進する。

2 3世代交流事業について

ア 廃校になった学校や幼稚園等の他，殆んど使用されない集会所などを無償か低額でボランティア団体やサークル等に提供し，3世代交流事業を推進することを支援する。

児童福祉について

1 乳幼児健診について

ア 乳幼児健診は，地域の保健センターで実施する。

2 インフルエンザワクチン接種の補助について

ア 将来の夢に向かって大きな挑戦をする中学3年生，高校3年生に対して，インフルエンザの予防接種の助成をする。

3 未就園児子育て期の保護者の社会参加と健康増進について

ア 文化ホール，公民館，博物館，図書館，体育館といった社会教育施設等に託児スペースを設け，託児要員を配置する。

4 ファミリーサポートセンター事業について

ア ファミリーサポートセンターの利用料の一部を市で負担する。又は，月に2，3時間程度の利用無料券を配付する。

イ 現在，子育てに限定された支援内容を全ての福祉的なニーズに対応する。

5 「育児支援ガイドブック」の作成と配布について

ア 薩摩川内市の子育て情報を網羅し，利用者の目線に立った「育児支援ガイドブック」を作成し，配布する。

6 父子手当支給事業について

ア 父子手当支給事業と児童扶養手当支給事業の支給金額や条件を同じにする。

障害者福祉（安全・安心で快適な町作りの推進）について

1 障害体験プログラムの導入について

ア 小・中・高・大学・地域での学習の場に障害体験プログラムを導入する。

2 障害の特性に配慮した公文書作成について

ア 各障害者団体と連携をとり，わかりやすい文書の作成や簡単に記入できる書類の作成をする。

3 各施設への補助犬（盲導犬，介助犬，聴導犬）の受け入れについて

ア ステッカーを貼るなどして，補助犬の受け入れの可・否を目に見える形にする。
もしくは，補助犬を連れている人を見かけたら本人への声かけができる人材の育成をする。

甕島や農村地域の活性化について

1 母子家庭や父子家庭の自立支援について

ア 離島（甕島）や過疎地域の空き家等をリフォームし，母子家庭や父子家庭に低額か無償での居住を促進し，仕事を斡旋・助言する。

薩摩川内市 50 人委員会 産業経済分科会

テーマ：「地域の特性を生かし，産業・経済活力を創造するまちづくり」
～地域を知り，活かし，アピールしよう！～

私達産業経済分科会では，我が街薩摩川内市をもっと県内外に知ってもらい，人の集まる街にしたいとの願いから，まず自らが「地域を知り，活かし，アピールしよう！」をテーマに，この１年半の間話し合いを重ねてまいりました。分科会の委員は１０名と少人数ではありましたが，薩摩川内市を思う気持ちは日々高まって数多くの意見が飛び交い，楽しく会を進めることができたと思います。

会を重ね，観光・イベント統廃合・３号線沿いの商店街の活性化・特産品・情報発信など様々な角度から検討を重ねてまいりました。

まず，観光の面から２回の視察研修を実施しました。薩摩川内市の歴史や史跡に触れることで改めて全員が感激を覚え，この素晴らしい素材を利用しない手はないと感じたところです。市の発展を考えた時，今あるものにどのような付加価値を付けるかでもっともつと可能性があると考えます。

そして，点在するイベントを整理し，統合廃止をする必要性を感じております。

また，市街地，特に３号線沿いの商店街を見渡した時のシャッターの降りた姿が目につきます。この件も提言で取り上げました。

さらに，今，食品の安全性が問われる時こそ，農産物・特産品を売り出すチャンスではないかと考えます。現在の加工施設等の見直しも必要と感じます。薩摩川内市をもっと発展させる為には，多岐に渡る人材育成，ひいては宣伝部隊（アピール隊）等も必要と考え，産業経済分科会では次のことを提言いたします。

< 提言 >

イベントの統廃合

- 1 地域活性化と経済効果を出すためには，現在各地で開催されている地域のイベントを統廃合してとりまとめを行う。

観光

- 1 観光協会やまちづくり公社など（観光事業に協力する団体）へのアドバイス・助成金内容を検討する。
- 2 観光素材の研究と歴史の語り部などを育成し，個人の優れた能力を登録する「観光人材バンク」を設置する。

3 充実したPRの展開を図る。

4 薩摩川内市アピール隊の設置をする。

活気あるまちづくり

1 商店街を利用してもらうために、既存の駐車場の位置表示等を徹底する。

2 空き店舗家賃補助事業の内容を再検討する。

3 観光モニターツアーを実施する。

4 第二のふるさとキャンペーンを展開する。

5 旅行会社のオプションツアー登録をする。

6 高速道路・新幹線全線開通により鹿児島市内への通勤の利便性を活かしたベッタウンの造成をする。

地域特産物の活用

1 休耕農地の有効利用の為に生産者募集及び生産者の育成と生産指導を行い、生産物により必要性があれば低金利の貸し付けを行う。

2 特産品の開発と情報発信をする。

地域特産品加工場の効率的活用

1 特産化を目指し生産加工活動をする市内に点在する加工場の効率的活用を進める。加工活動をする団体の活動状況を含め利用料金などを検討把握し、活動しやすいように支援及び指導を行う。

人材育成

1 観光協会や商工観光に携わる人達へ指導する立場にある自治体自体の指導力強化及びリーダーシップの発揮をする。

2 観光・商工業者への接遇研修等を行い、人材育成に努める。

情報共有

- 1 広告宣伝料で賄うフリーペーパーの作成をする。
- 2 情報発信基地の構築をする。

薩摩川内市女性 50 人委員会 教育文化分科会

テーマ：「健全な地域社会を目指して」

～子どもから高齢者まで～

私たちの分科会では、自治体を支え、その活性化の力の元となる地域の力に着目しました。地域力にはいくつかの要素が考えられますが、子どもから大人まで、市民を育てる力である教育力が欠かせません。その視点から、今回は、まず、幅広く不特定の市民に関わり、文化の中心とも言える図書館について提言を作成しました。次に、生涯学習の活性化の視点から、文化施設、また高齢者を含む活動についても取り上げました。

地域の宝とも言われる子どもと子育て環境について、学校との関係から当分科会で検討しました。幅広く市民の声を聞くために、市全域の小学校児童保護者を対象に「小学生の放課後の時間の使い方についての実態調査アンケート」を取ったところ、約 6 割の回答をいただきました。この集計作業と結果の考察を通して、子育て支援についての提言作成を行いました。

また、今の若者層や女性の将来的な更なる積極的な市政参画につながるための市民教育・啓発につながる方策も必要ではないかと考えました。

時間の都合上、上記のどの分野においても、協議や考察がし尽されておりません。今後一層、発展的に検討が続けられることを願ってやみません。

< 提言 >

薩摩川内市立中央図書館について

1 施設面の提言

ア 図書館 3 階の研修室の利用をもっと促進する。

イ 学習室が、公平に、かつきちんと利用されるように、利用のきまりや部屋・机等、定期的に、実態に合わせて見直す。

ウ 乳幼児連れの人たちがもっと利用しやすいように工夫する。

エ 車椅子の方々に利用しやすくする。

オ 駐車場が足りないので、もっと駐車場を確保するなど、対策を立てる。

カ 文化の中心ともなるべく図書館の分館を、川内駅東側の施設に併設する。

キ 読み聞かせコーナーを作る。

2 運営面の提言

ア テーマを決めるなど、もっと利用者に配慮したコーナー作りをする。

イ 特別コーナー（テーマ本など）では、貸し出し中ということが分かる様に、空箱を置くなど工夫する。

ウ 読み聞かせのための研修会や学習会をもっと開催する。

エ 開館時間・蔵書・職員の対応など市内の読書推進活動の中核として、各分館への働きかけをもっとしていく。

3 図書館サービスや集会活動の提言

ア 幅広い市民への読書活動等の啓発活動、各読書グループの活動紹介などをもっと定期的に、積極的に行い、広報もきちんとする。

イ 図書館だよりをより充実させる。

ウ 利用者アンケートなどを定期的に実施し、市民の声を的確に反映させる。

4 図書館管理運営体制への提言

ア 司書が専門業務に専念できるように図書館ボランティアの育成や参加呼びかけ等を積極的に行う。

イ 図書館運営上、図書館長や運営執行部には、専門家が必要である。

文化・教育施設・事業の充実、生涯学習の活性化について

1 薩摩川内市の規模に合った多目的ホール（文化ホール）を作る。

2 文化・芸術等イベントを甑島でも随時開催する。

3 コミュニティセンター及び集会所等を多目的に利用できるようにする。

4 高齢者の意見が生かされる委員会を設立する。

子育て支援について

- 1 放課後子どもプランを積極的に推進する。
- 2 本分科会が行った小学生の放課後の時間の使い方についての実態調査アンケートの結果を、本年度実施予定の子育て支援関係のアンケート作成時に参照するとともに、アンケートの結果を反映させるようにする。(回答率63.4%)

市民参画

- 1 市政に対する市民の意識変革を進めるための説明会を実施し、わかりやすいガイドブックやガイドラインを作成し、周知徹底する。
- 2 男女共同参画をより推進していくために、女性が市政について考え、学ぶことのできる場を今後も企画・運営していく。

薩摩川内市女性 50 人委員会 共通事項

各分科会での議論の中で、担当分科会のテーマでない事項及び、他分科会の事項に関連のある事項について提言します。

< 提言 >

I 共通事項について

- 1 広報紙を読みやすくする。
- 2 窓口対応に、専門的な知識や経験を持つ人材を常駐させる。
- 3 防災無線をより多目的に活用する方策を検討する。
- 4 甑島・本土との市民の交流の促進のため、「川内・甑島間」の乗船券が安くなるような方策を工夫する。

薩摩川内市女性50人委員会経緯

平成19年度

第1回全体会及び分科会	4月19日	全体会	すこやかふれあいプラザ
第2回分科会	5月22日	産業経済分科会	すこやかふれあいプラザ
	6月4日	生活環境分科会	川内文化ホール
	6月7日	保健福祉分科会	すこやかふれあいプラザ
	6月14日	教育文化分科会	国際交流センター
第3回分科会	7月4日	産業経済分科会	川内・東郷地域
	8月21日	生活環境分科会	川内原子力発電所
	8月28日	教育文化分科会	すこやかふれあいプラザ
	9月6日	保健福祉分科会	すこやかふれあいプラザ
第4回分科会	9月6日	産業経済分科会	樋脇・入来・祁答院地域
	10月4日	保健福祉分科会	すこやかふれあいプラザ
	10月9日	生活環境分科会	川内文化ホール
	10月22日	教育文化分科会	すこやかふれあいプラザ
第5回分科会	11月2日	産業経済分科会	すこやかふれあいプラザ
	12月4日	教育文化分科会	すこやかふれあいプラザ
	12月4日	生活環境分科会	川内文化ホール
	12月6日	保健福祉分科会	すこやかふれあいプラザ
第6回分科会	1月8日	産業経済分科会	すこやかふれあいプラザ
	1月30日	生活環境分科会	いこいの村いむた池
	2月7日	保健福祉分科会	すこやかふれあいプラザ
	2月25日	教育文化分科会	すこやかふれあいプラザ
第7回分科会	2月10日	生活環境分科会	国際交流センター
	2月26日	産業経済分科会	すこやかふれあいプラザ
	3月6日	保健福祉分科会	すこやかふれあいプラザ
	3月25日	教育文化分科会	すこやかふれあいプラザ
(自主会議)	6月25日	教育文化分科会	すこやかふれあいプラザ
	9月19日	教育文化分科会	すこやかふれあいプラザ
	10月5日	教育文化分科会	すこやかふれあいプラザ
	11月5日	教育文化分科会	すこやかふれあいプラザ
	12月20日	生活環境分科会	いこいの村いむた池
	1月19日	教育文化分科会	すこやかふれあいプラザ
	1月30日	教育文化分科会	水引町
	2月6日	教育文化分科会	すこやかふれあいプラザ
	3月20日	産業経済分科会	サンシャイン和光
代表者会(会長・副会長・各分科会長・副会長)	3月28日		すこやかふれあいプラザ

平成 2 0 年度

第 1 回全体会	4 月 2 2 日	全体会	すこやかふれあいプラザ
第 1 回分科会	5 月 8 日	保健福祉分科会	市役所
	5 月 1 9 日	生活環境分科会	すこやかふれあいプラザ
	5 月 2 0 日	産業経済分科会	すこやかふれあいプラザ
	5 月 2 2 日	教育文化分科会	すこやかふれあいプラザ
第 2 回分科会	6 月 2 日	生活環境分科会	川内文化ホール
	6 月 5 日	保健福祉分科会	川内文化ホール
	6 月 1 0 日	教育文化分科会	川内文化ホール
	6 月 1 7 日	産業経済分科会	すこやかふれあいプラザ
第 3 回分科会	7 月 3 日	保健福祉分科会	すこやかふれあいプラザ
	7 月 7 日	生活環境分科会	川内文化ホール
	7 月 8 日	教育文化分科会	すこやかふれあいプラザ
	7 月 1 1 日	産業経済分科会	すこやかふれあいプラザ
第 4 回分科会	7 月 1 7 日	教育文化分科会	すこやかふれあいプラザ
	7 月 2 4 日	産業経済分科会	すこやかふれあいプラザ
(自主会議)	5 月 8 日	教育文化分科会	すこやかふれあいプラザ
	6 月 6 日	教育文化分科会	すこやかふれあいプラザ
	8 月 4 日	教育文化分科会	すこやかふれあいプラザ
甑地域視察研修	5 月 1 5 日・1 6 日		里・上甑・下甑・鹿島地区
代表者会(会長・副会長・各分科会長・副会長)	7 月 3 1 日		すこやかふれあいプラザ
第 2 回全体会	8 月 2 2 日		川内文化ホール
提言提出	9 月 2 日		市長応接室

第2期薩摩川内市女性50人委員会委員名簿

生活環境分科会（第1分科会）

NO	氏 名	地 区	備考
1	ハラダ エツコ 原田 悦子	隈之城	分科会会長
2	エザキ キクコ 江崎 紀久子	可愛	分科会副会長
3	イシガミ カズヨ 石神 和代	祁答院	
4	クイヒラ キヨコ 柊 平 清子	陽成	
5	クキノ コ 久木野 ヨシ子	可愛	
6	ゴトウ コ 後藤 メイ子	水引	分科会書記
7	タシマ キクエ 田島 喜久恵	高来	
8	タシマ チヨコ 田島 千代子	城上	分科会書記
9	ハシグチ ヒデコ 橋口 秀子	隈之城	委員会会長

産業経済分科会（第3分科会）

NO	氏 名	地 区	備考
1	イワキリ ケイコ 岩切 慶子	入来	分科会会長
2	カミヒラ 上平 コミエ	亀山	分科会副会長
3	ウメキ コミコ 梅木 裕美子	峰山	
4	サイトウとう キミコ 齊 藤 公子	里	
5	シロシタ コキコ 城下 由紀子	峰山	分科会書記
6	マエダ コキコ 前田 由起子	隈之城	分科会書記
7	ヤクシジ コ 薬師寺 しげ子	水引	
8	ヤマウチ チヲコ 山内 千和子	下甑	
9	ヨツモト ジュンコ 四元 純子	樋脇	
10	ヨネマス サダコ 米増 禎子	祁答院	

保健福祉分科会（第2分科会）

NO	氏 名	地 区	備考
1	シオカマ エツコ 塩釜 悦子	鹿島	分科会会長
2	イケダ ノブコ 池田 信子	隈之城	分科会副会長
3	ウエムラ アヤコ 植村 斐子	亀山	
4	エグチ キクミ 江口 菊美	育英	委員会書記
5	キノシタ 木ノ下 さつき	平佐東	
6	コジマ エリ 小島 恵里	平佐西	分科会書記
7	サイトウ サチコ 齋藤 佐千子	育英	分科会書記
8	セトヒガシ コミコ 瀬戸東 由美子	東郷	
9	ナカムラ ヨシエ 中村 祥江	滄浪	
10	ナリマツ ヒサヨ 成松 久代	水引	
11	ハルタ アケミ 春田 明美	入来	
12	フクジュ 福寿 ゆかり	八幡	
13	マノ ヨシコ 眞野 良子	樋脇	委員会副会長
14	ミヤソノ ノリコ 宮園 典子	入来	
15	モトシマ 元島 めぐみ	入来	
16	ヤマノクチ アイコ 山之口 愛子	永利	

教育文化分科会（第4分科会）

NO	氏 名	地 区	備考
1	ホカソノ コ 外園 ユウ子	永利	分科会会長
2	ハシド エ 橋渡 よし江	平佐西	分科会副会長
3	イシハラ ヒロコ 石原 弘子	上甑	
4	カシワギ トモコ 柏木 朋子	湯田	分科会書記
5	カミオザキ 上尾崎 ゆり	川内	委員会書記
6	カワハラ カズヨ 川原 和代	城上	分科会書記
7	サメシマ ノリコ 鮫島 紀子	西方	
8	セグチ マユミ 瀬口 眞由美	東郷	
9	タニサキ カズヨ 谷崎 和代	永利	
10	ナカゾノ 中園 はつよ	東郷	
11	ナカムラ チヨコ 中村 智代子	入来	
12	ニシ トキコ 西 登喜子	樋脇	
13	ヒガシ トモヨ 東 朝代	峰山	
14	ヒワタシ トモコ 樋渡 知子	高来	
15	ヨコヤマ コミコ 横山 由美子	峰山	